



〈原点〉 蔡國華 青春期のデッサン展 Part.1

【同時開催】
蔡國華作品展 in 上海

画空間で「原点」と題されたデッサン展が、上海では作品展が4月に同時開催されました。

「原点」は今から約30年以上前、蔡國華が画家を目指す青春期に描きたため膨大なデッサンの中から二十数点を選び展示したもので、まさに彼の原点と言わなければならない作品です。保存状態が良かったこともあり、あえてシンプルなアクリル板のみでディスプレイし、作品の持つ質感や趣きなどをダイレクトに感じていただけるようにしました。



「デッサン」から垣間見える当時の上海の様子や、ストイックなまでの探究心に思いを馳せる来場者も多く、時を越えて多くの事を語りかける展覧会となりました。

また、同時期に上海中心部「紅坊国際文化芸術園区」にある華氏画廊にて、蔡國華作品展が行われました。「紅坊国際文化芸術園区」は元製鉄工場の跡地を利用した通称「レッドタウン」と呼ばれる人気アートのスポットです。

今回は、昨年11月の上海アートフェアに続く大規模な展覧会で、一カ月以上という長期にわたり大作を含む約30点が展示されました。

水彩と油彩の風景画を中心に、上海アートフェアでも好評を博した「神曲」シリーズ12点もゆつたりとしたスペースに展示され、際立った存在感を示していました。



期間中は新聞社の取材なども入り、作品に対する関心の高さがうかがえました。



桜もほころび始めた4月上旬に、「森光子作品展」が行われました。

森さんはパリを拠点として活動するアーティストで、作品を通してクリロ化成ともゆかりのある方です。

クリロ化成本社設計室に飾ってある五角形をモチーフとした作品は、クリロン製品の五層フィルムにも通じるイメージで社員からも愛されています。



今回、貴重な日本国内での作品展を画空間で開催し、多くの方にご来場頂きました。

の均衡と融合は、見る者の心理に深く入り込むような静寂とエネルギーを感じさせます。

また、スペインのグラナダでインスピレーションを得たという「グラナダ」シリーズは、オーセンティックな形態の再発見とも言えるべき美しい作品で人気を集めていました。



画空間の個展に寄せて

森 光子

栗原明理さんに最初にお会いしたのは、10年ほど前フランスにいらした時で、2006年にはBUNKAMURA・ギャラリーで展示した際、作品を見て頂きました。また、昨年9月に栗原さんが再びフランスにいらした折、パリの東ヴァンセーヌの森のバルクフロアでまたま開かれていた私達の団体展「レアリテ・ヌーヴェル展」にお越し頂きました。その後、画空間での展示のお誘いがあり、今回4月の展覧会の開催となりました。

私は長年、幾何学的形態をモチーフに仕事を続けてきたのですが、1991年の湾岸戦争の折、ラジオ放送でアメリカのペンタゴン（国防省）のことを何度も耳にしそれまでの二等辺三角形の仕事から、五角形の作品を試みたのです。その後20年余り、五角形をテーマにした作品を追求してきました。そしてこの形が今ではアイデンティティーになってしまいました。アメリカの国防省が五角形の建物で知られていますが、フランスでは17世紀の建築家ヴォーヴアンが五角形の要塞を築き、日本では北海道に五稜郭が造られ、五角形の機能が建築に好まれてきました。最近ではスペインを旅行し、ケルト人が残した円形の集落に興味を持ちたり広場のタイルの幾何学的装飾に美を見出したり作品になりそうなテーマに旅の途中出会います。



森 光子(もりみつこ)
1968 東京 芸術大学絵画科油絵専攻卒業
1970 同大学大学院油絵専攻終了
フランス政府給費留学生として渡仏
マルセイユ・リュミエール建築美術
学校、パリ国立美術学校で学ぶ。現在、パリを拠点にヨーロッパで作品を発表。

北海道工場20周年記念の会

北海道工場が設立されたのは、1994年6月。今年で20周年を迎えます。5月15日(木)18時より小樽花嫁センターにて、北海道工場20周年記念の会が開催されました。

北海道工場の歩みについて、工場選任者より設立当時のスライドを上映しながらの丁寧な説明がありました。

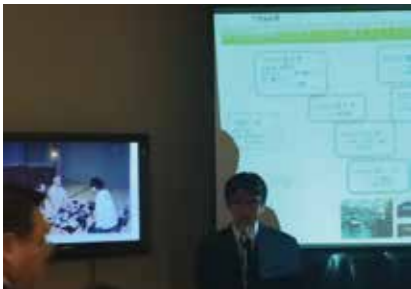
20年前には、工場というより何も無い、文字通り『ゼロ』からのスタート。大阪、岡山の数名と北海道の3名にて、建設工事を行い、少しずつ工場らしくなっていた事、初めて設備が導入され、気合が入った瞬間と、時々様子が臨場感いっぱい語られ、勤続年数が高い方も、まだ短い方も各々が感慨深い思いに浸りながら、現在の北海道工場が出来るまでの歴史を鑑賞しました。

また、20周年について、何名かの方に一言ずつコメントを頂きました。懐かしい写真の投影と共に名前が呼び上げられると、みなびつくりした様子でしたが、この20周年を感謝し、今後の発展を願う各人のコメントは、ユーモアに満ちたすばらしいものでした。

栗原社長からもお祝いとおねぎらいの言葉、そして今後の北海道工場の展望についてのお話を頂きました。

終始和やかな雰囲気の中、記念の会は進行して行きました。そして今までの20年の歩みを胸に、今後の北海道工場の発展へ向かう気持ちを持ちながら、会は幕を下ろしました。

今後とも北海道事業所を何卒よろしくお願ひ申し上げます。



20年前の工場設立の様子

東北・グアム全社旅行

2014年度の全社旅行が6月5日から国内組み海外組みに分かれて行われました。

国内組は総勢61名。2泊3日での仙台、岩手の東北地方への旅行に行きました。

2011年の東日本大震災のつめ跡がまだまだ残っており、初日に到着した仙台空港では、空港に到達した津波の表示があり、こんな高さまで津波が押し寄せていたのかと、驚きました。



一日目は、瑞鳳殿、青葉城跡を見学し、伊達政宗の歴史を勉強しました。その後、ニッカウイスキーの工場見学では、ウイスキーの製造・貯蔵の工程を実際に見て、普段何気なく飲んでいるお酒の奥深さを知ることが出来ました。

翌日は、三陸鉄道に乗り込み震災の現場、復興中の現場を車窓から目の当たりにしました。本当に大変な地震が発生し、まだまだ復興が進んでないところもあるのだと改めて気づかされた貴重な一日でした。

三日目は、サツパ船に乗り、海ねこと間近で触れ合うことが出来ました。快晴ではなかったですが、青の洞窟も綺麗で神秘的でした。



私を含めた参加メンバーの多くは、震災後の東北を訪れるのは初めてでしたので、自分自身の目で震災の現場を見ることの出来る機会になりました。

海外グアム組は、総勢54名。家族参加も多く、グアム最大級のウォーターパークを保有するパシフィックアイランドクラブグアムに3泊しました。到着日の夜には、田川取締役の乾杯の発声を機に、ポリネシアンディナーショーがスタート。水と光と火が合わさり、とても幻想的なショーでした。翌日は朝から島内観光へ。バスガイドさんから戦下の話を聞きながら、アプガン砦やスペイン広場を観光。ガイドさんに勧められたトロピカルスムージーは甘く冷たく絶品でした。また伝説を残す恋人岬から見下ろす一面は、海と空のコントラストがまさに絶景でした。ホテルに戻ってからのビーチバレーも、チームやメンバーを問わず交流し大いに盛り上がりました。翌日から各々自由行動。シーウォーカー、イルカウォッチング、ウエイクボード、サンセットクルージングなどを満喫する人も。ビーチは遠浅で、十分足が着く深さでも色鮮やかな魚が見られました。連日晴天に恵まれ、赤黒く日焼けした社員も多いようですが、灼熱のグアムに思いを馳せて、また今日からそのパワーをクリロに活かします。





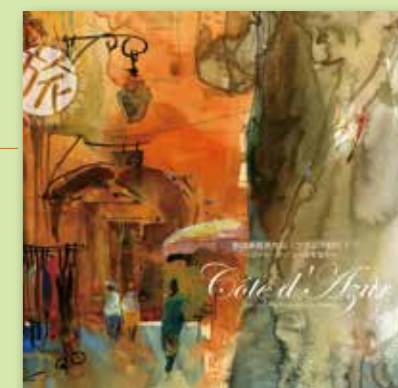
「古城之春 -Vence-」 蔡國華

Information

「フランス紀行」画集完成記念 蔡國華 作品展

2014年7月28日(月)～8月2日(土)
画空間にて

南フランスを旅し、描いた作品をまとめた画集が完成いたしました。旅情と臨場感あふれる旅のエッセイが入り、美しくも楽しい画集です。旅する気分でご覧ください。
出版を記念し、収録作品を中心に現地で描きあげた作品を展示いたします。



蔡國華風景作品「フランス紀行」
—コートダジュールを描く—
サイズ：255 × 247mm
36ページ
2,000円(税込)

画空間ホームページ <http://www.a-kukan.com/>